

スクミリンゴガイ情報第1号（水稲）

令和8年4月6日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

活動開始が早くなる可能性があるため、注意しましょう

1 スクミリンゴガイについて

本種は、ほ場や水路で越冬し、水温 15℃以上で活動を開始します。特に柔らかい植物を好み、田植え後約3週間までの稚苗を食害します。水中で摂食活動を行い、水深が浅いと活動が制限されます。水面上の茎葉も引き込んで摂食するため、食害に遭った部分は欠株となり、多発生の場合、ほとんどの株が食害されることもあります。

2 今後の発生予測

前年6月下旬及び7月下旬に県内 47 地点（1地点あたり2ほ場）で実施した巡回調査において、スクミリンゴガイの発生が確認された地点の割合（発生地点率）は、36%（前年 34%、前々年 43%）と過去10年と比較して前年並の状況でした（表1）。

冬期の気温が高いほど、スクミリンゴガイの越冬量は多くなる傾向です（表1の色付け部分）。令和7年12月から令和8年2月までの日最低気温の平均値は 2.6℃（前年 2.5℃、前々年 2.0℃）と過去10年と比較して前年並です。しかし、冬期の気温が低くても、発生地点率は一定の割合以上で推移していることから、近年スクミリンゴガイの発生が続いているほ場では注意が必要です。

また、4月2日名古屋地方気象台発表の1か月予報によると、向こう1か月の気温は高いと予想されています。スクミリンゴガイの活動開始が例年より早まることが考えられるため、早い作型でも本種の発生及び被害に注意しましょう。

表1 スクミリンゴガイの発生地点率と冬期の気温（発生地点率：%、気温：℃）

年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
発生地点率※1	43	32	26	34	38	36	32	30	43	36	
平均気温※2 (前年度12月～2月)	7.2	6.0	4.7	6.8	7.8	6.6	5.3	6.1	7.5	5.7	6.8
最低気温※3 (前年度12月～2月)	3.3	2.1	0.9	3.0	4.1	2.8	1.5	2.2	3.6	2.0	2.6

※1 6月下旬及び7月下旬の発生予察調査において発生を確認した地点の割合

※2 12月～2月の各月平均気温から平均値を算出（アメダス地点：名古屋）

※3 日最低気温の月平均について、12月～2月の各月の数値から平均値を算出（アメダス地点：名古屋）

3 防除対策

スクミリングガイが発生しているほ場では、表2を参考に薬剤散布を行いましょう。本種は田植え後すぐに摂食を開始するため、**移植同時または移植直後に薬剤散布を行いましょ**う。薬剤は湛水状態で散布し、散布後7日間は落水やかけ流しをしないようにしてください。

スクミリングガイは水中でないと摂食できないため、**移植後3週間頃まで浅水管理（水深4cm以下）**を行うことや、取水口にネット等を設置し水路から本田への侵入を防ぐことも重要です。

表2 水稻のスクミリングガイに対する主な防除薬剤

薬剤名	成分名	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
スクミノン	メタアルデヒド	収穫60日前まで	散布又は無人航空機による散布	2回以内※
ジャンボたにくん	メタアルデヒド	収穫60日前まで	散布	2回以内※
スクミンベイト3	磷酸第二鉄	発生時	散布、無人航空機による散布	-

※ メタアルデヒドを含む農薬の総使用回数は2回以内。

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。

4 その他

スクミリングガイの防除対策については、農林水産省がマニュアル等（アドレス：<https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/siryous2/sukumi/sukumi.html>）を公開していますので、参考にしてください。